

ハウス栽培ブドウ赤色系品種「安芸クイーン」の環状はく皮と
除袋処理による着色促進

○福田浩幸・稲富和弘・前山美和¹⁾

(佐賀果樹試・¹⁾佐賀上場営農)

【目的】

赤色系ブドウ「安芸クイーン」は食味良好で大粒な有望品種であるが、佐賀県を含め西南暖地では2月中旬以降に加温するハウス栽培から簡易被覆、露地栽培にいたるまで着色が悪く、品種本来の鮮紅色にならず、生産が伸び悩んでいるのが現状である。そこで、環状はく皮処理と果房に光を当てるための無袋処理により着色促進および品質向上を図る。

【材料および方法】

果樹試験場加温ハウス内植栽の「安芸クイーン」12年生を供試した。試験区は(1)環状はく皮と除袋を行うはく皮区、(2)除袋のみを行う除袋区、(3)はく皮も除袋も行わない無処理区とし、1区1主枝で実施した。環状はく皮は満開36日後の5月13日に行い、主枝に幅2cmで処理した。除袋処理は6月14日に行った。果実品質の推移ははく皮区と無処理区について1区5房について約10日おきに糖度と酸度を調査した。収穫時の果実品質は7月9日に1区10房について調査した。そのうち1房10粒について果皮のa値を色差計(スガ試験機製ハンディカラーテスターH-CT)で測定した。達観による果色の調査は収穫した房すべてについて行い、良を5、中を3、不良を1として指数化した。

【結果および考察】

第1表 開花36日後の環状はく皮および除袋処理がハウス栽培「安芸クイーン」の果実品質におよぼす影響^{z)}

試験区	果房重 (g)	着粒数	一粒重 (g)	果色 ^{y)}	糖度 (Brix)	酸度 (g/100 ml)	a値	商品化率 ^{x)} (%)
はく皮区	429.5a ^{w)}	24.7a	17.4a	4.7a	20.2a	0.42a	8.6a	96.0
除袋区	404.9ab	25.7a	15.8b	3.0b	18.0b	0.47b	6.2b	48.5
無処理区	378.0b	22.2b	17.1ab	2.3c	18.5b	0.45b	3.8c	20.3

z)2004年7月6日調査

y)果色は5:良、3:中、1:不良で指数化

x)商品化率は全収穫果房中の果色3以上の果房の割合

w)同一列内の異なるアルファベットはTukey-KramerのHSD検定5%水準で有意差あり

果実品質の推移は、はく皮区の糖度が収穫期まで高く推移した。酸度は、はく皮区がやや低く推移したが、収穫時には差がなかった(第1図)。収穫時の果実品質では、果色、糖度ははく皮区が明らかに高かった。また、色差計値のa値ははく皮区が最も高く、赤味が強かった。次いで除袋区で無処理区が最も低かった(第1表)。

収穫時の達観による果色割合は、はく皮区では果色3以上の商品化できる房の割合が90%以上あるのに対し、除袋区で50%、無処理区は20%であった。

以上のことから、加温ハウス栽培「安芸クイーン」に対する開花36日後の環状はく皮+除袋処理は、糖度を高め、着色を促進する効果があり、品質向上に有効な方法であると思われた。また、除袋のみでも着色促進に有効であった。

